

JOCジュニアオリンピックカップ
第37回全日本ジュニアバドミントン選手権大会山形県予選会
＜監督・代表責任者会議資料＞

競技・審判上の注意

【競技上の注意】

- 1 本大会は、（公財）日本バドミントン協会競技規則、同運営規程並びに公認審判員規程により行います。
- 2 試合が連続する場合のインターバルは、**10分間**とします。
- 3 試合は、ジュニア・ジュニア新人の部とも**準決勝から21点3ゲーム**で行います。それ以前の試合は、すべて**15点3ゲーム**とします。
- 4 コーチングシートに座ることができるのは、当該監督・コーチ及び引率責任者となります。
- 5 シャトルは、持ち寄りとします。ただし、準決勝からは主催者側で負担します。
- 6 ウェアは、審査合格品とし、背面には必ず学校名、またはクラブ名を明示したものを着用してください。
- 7 空きコートでの練習は禁止します。
- 8 選手はコールされたら速やかにコートに入ってください。コールされてから5分経過してもコートに入らない場合は、失格を宣告する場合があります。
- 9 マッチ中の怪我や病気による中断はレフェリーが判断して、相手選手への中断時間を主審に告げます。また、鼻血等の出血・嘔吐などの症状があった場合は、直ちに中断してレフェリーが判断・対応します。なお、当事者（または監督・コーチ及び引率責任者）からの棄権申告についても、レフェリーが判断します。
- 10 3位決定戦はジュニア新人の部のみ実施します。

【審判上の注意】

- 1 審判は、当日の2回目の試合から敗者審判制（主審）とします。試合に敗れた選手はスコア用紙を進行まで持参して、係からの指示に従ってください。
- 2 準決勝より公認審判員が主審を行います。
- 3 競技規則の特に第9条（サービス）、第16条（プレーの継続、不品行な振る舞い）には厳正に判定します。なお、サービスジャッジの要請があった場合はレフェリーの判断により配置するかを決定します。
- 4 インプレー中のアドバイスが主審によって確認された場合は、レットを適用してレフェリーの判断により厳正に対処します。
- 5 インターバル中に、着替え等により競技区域を離れ時間内に戻らない場合はフォルトとします。
- 6 オーバールールは公認審判員が主審の際に適用します。敗者審判制ですが主審が公認審判員資格を有する場合も同様とします。
- 7 マッチ中のコートまたは競技区域内でプレーヤー及び監督・コーチの携帯電話が鳴った時はイエローカードが出されます。
- 8 コーチングシートには試合にふさわしい服装で臨んでください。
（コーチングシートへの団扇・扇子の持ち込み、Tシャツ、裸足、サンダル履き短パン・ハーフパンツは不可。7分丈パンツは可）また、マッチ中のコートまたは競技区域内でプレーヤー及び監督・コーチの携帯電話・i p a d等の機器の使用を禁止します。
- 9 コーチングシートに入る者は、指定された椅子に着席するものとしマッチ中コートのそばに立つ事のないようにして下さい。また、**他コートに移動する場合は、インプレーでないときにして下さい。**